

公民館報

たかぎ

【第 652 号】

発行日 2023年9月15日

発行責任者 喬木村公民館長

林 司

編集責任者 公民館編集部長

池田 英明

印刷 龍共印刷株式会社

写真：喬木カメラクラブ 湯澤 昭夫 「豊作の夕影」

題字：真浄寺書道会 松島 杏佳

二十歳のつどい

みんなの思い 再会を祝す



どいが開催された。市瀬村長をはじめ、来賓からの祝辞のあ
将来への覚悟の言葉が伝えられた。

の牧田大知さんの掛け声で餅投げが始まると、大勢の人たちの

宴が開かれた。就職、進学などで進路は離れ離れとなっている
記憶とともにすぐに打解けた。それぞれ好みの飲み物を手
られた。3年余に及んでいる新型コロナウイルス感染症の影
トによる授業や会議がなされてきた世代である。中学校卒業
今日のこの瞬間を心待ちにしていた。実際に会ってみて、す

当日を盛り上げた。

当日まで

実行委員の皆さんは当
日に向けて、何度も打
ち合わせを行い準備を
進めて来ました。



みんなで祝う節目。
どこで何をするか…
相談して考えました。



実行委員長	岡田 初
副実行委員長	桐生大輝
副実行委員長	根津美咲
副実行委員長	牧田大知
実行委員	渋谷実夢
実行委員	木村瑠花
実行委員	サルチホソダ樹里
実行委員	下澤華乃

実行委員の皆さん



おめでとうございます

緊張の式典を終えて
ホッと一息

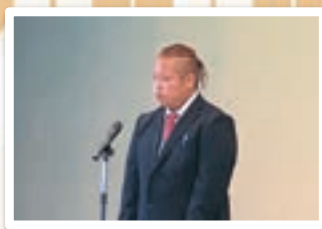


令和5年度

故郷でつなが 久しぶりの



式典の様子



4年ぶりの村歌斉唱のあと、代表の4名の皆さんから意見発表がありました。

8月15日喬木中学校体育館を会場に、令和5年度二十歳のつと、代表者による意見発表があり、発表者からは感謝の言葉とその後、初開催の喬木まつりのステージに登壇し、実行委員熱気に包まれた。

続いて会場を福祉センターに移し、和やかな雰囲気の中、祝るものの、同じ学び舎で過ごした旧友との再会を果たすと、蘇に、恩師や旧友との話に花を咲かせ、再開を約束する場面も見響で、行動制限がなされ、行事は中止もしくは縮小となり、リモート以来の対面となる出席者もあり、会えない期間が長かったので、ごく楽しかった、嬉しい、との感想が寄せられた。

開催準備にあたっては、実行委員が中心となり打合せを重ね、



来賓の皆さんからの祝辞に背筋が伸びます！



二十歳のつどい

祝賀会の様子



コロナが開けて、久しぶりの祝賀会。皆さんの笑顔が溢れていました。

恩師との再会に話に花が咲く場面も。





実行委員長あいさつ 岡田 初さん

本日は私たちのためにこのような素晴らしい二十歳のつどいを催して頂きまして誠にありがとうございます。また、市瀬村長を始めとするご来賓の皆様、恩師の先生方のたくさんの方にご臨席頂き、大変嬉しく思います。私たちの人生において大きな節目となる二十歳のつどいを開催するために多くの方にご尽力頂き、本日この日を迎えられていることに心より感謝致します。

私は高校卒業後、地元企業に就職し、主に医療関係の精密部品を作製しています。精密部品は0.1mmのズレが不良品となってしまいます。一回で寸法を出さず少し大きく作ってから調整することで不良品を出さない工夫をしています。このように細かいところに常に気を遣って仕事をする中で自分でお金を稼ぐことの大変さを知りました。

また、私は高校生の時にラグビーと出会いました。私はこれまで何かに対して本気になったことがなく、何をしても中途半端に終わってしまっていました。そんな私が本気で喜んだり悔しいと思い、辞めたくなくても「それでも」と言い続け最後までやりきることが出来たのがラグビーでした。そんなラグビーを通して仲間と協力し思いやることや諦めない気持ちなど多くのことを学びました。現在は社会人チームに所属し、高校生の時から背負っていた背番号の1番を背負い試合に出ています。先日行われた長野市長杯では昨年に引き続き優勝することが出来ました。次の試合でも優勝チームのスタメンである自覚と自信を持ちいいプレーができるように頑張りたいと思います。

さて、本日は実行委員長と言う大変光栄な役割を担う機会を頂き、改めて自分を見直してみました。

私は現在社会人として精神的に未熟であると感じます。そんな私が社会人の一員として生活できているのも地域の方々の支えがあるからこそだと思います。これからの人生、少しずつ社会に目を向け地元企業での勤務や消防団活動に全力を尽くすことで今まで支えて頂いた地域の方々に少しでも恩返しをしていきたいと思っています。そして社会の中で目の前の課題に誠実に向き合い、取り組んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、これまでお世話になった全ての方々への感謝の気持ちを忘れず社会人として日々成長して行くことを誓いお礼の言葉とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。



1組代表あいさつ 宇佐美里桜さん

本日は、私達のためにこのような盛大な式典を開催して頂き、誠にありがとうございます。また、村長様をはじめ、ご臨席頂きました多くの皆様方、式典を開催するにあたりご尽力頂いた皆様に心より御礼申し上げます。

私は、高校卒業後、地元の喬木村を離れ、伊那市のバス会社に就職し観光バスガイドとして働いております。

入社当初は主に、研修の日々でしたが、現在は中学生の奈良・京都方面への修学旅行や、小学生の社会科見学、臨海学習、また一般企業の社員旅行などに乗務しております。バスガイドという職業に憧れをもち、入社いたしました。思い描いていたよりも何倍も大変で、くじけそうになったこともありましたが、バスに乗り、色々なお客様と関わっていく中で、旅のおわりに感謝の言葉を頂いたり、笑顔でお帰りになれる姿を見ますと、またこれからも頑張ろうと思え、やりがいを感じます。行動規制なども緩和され、旅行をされるお客様も増え、学校行事などもだんだんと元どおりになってきたことで、県外への仕事が増えました。

県外へ仕事へ行くと、どの地域にも特産品や魅力を感じる場所があり、仕事へ行く度に新しい発見があります。地元の喬木村にも、いちごや新鮮な野菜、くりん豚などの美味しい特産品や、豊かな自然、そして人々の温かさなど、数えきれないほど沢山の魅力があります。そういった喬木村の魅力や素晴らしさを仕事を通じて、県内だけでなく、県外のお客様にも知って頂き、喬木村の良さを広めていくことが私の夢であり、バスガイドとしての目標です。できることは少ないかもしれませんが、喬木村に恩返しをしていきたいです。私たちは、20歳という人生において大きな節目を迎えました。おかれている立場は、それぞれ違いますが、一人ひとりが自身の目標に向かって歩んでいる最中です。

しかし、一つだけ共通していることがあります。それは、これからは大人としての自覚や責任感をもち、行動していかなければならないということです。

晴れて大人の仲間入りをしましたが、まだまだ未熟な私達です。どうかこれからも、ご指導、ご鞭撻を頂きますようお願いいたします。最後になりましたが、今日まで私達を育て、励まし、温かく見守って下さった家族や先生方、そして地域の皆様方への感謝の気持ちを忘れず、日々精進していくことをここに誓い、一組代表の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。



2組代表あいさつ 松澤 和輝さん

本日は、私たちのためにこのような素晴らしい二十歳のつどいを開催していただき、誠にありがとうございます。

市瀬村長をはじめ、ご来賓の皆様、多くの方々のご尽力により、私たちは大切な節目を迎えることができました。新型コロナウイルスという環境を体験し、落ち着きを見せつつある今日、このように当たり前のように集い、この日を迎えられることに、心より感謝申し上げます。

私は高校卒業後、喬木村を離れ県外の専門学校に進学をし、初めての一人暮らしを経験しました。当時の私は一人暮らしにあこがれがあり、非常に楽しみでした。しかし、気の向くまま生活ができるのはいいものの、家事、炊事、加えて勉強をこなさなければならない。想像以上に大変な日々が続きました。もちろん見知らぬ土地であり、困り事があれば気軽に相談できる友人もあまりいません。そのため、家族団らんの日々を送ることができ、近所の方々から

も明るく接してくださるこの喬木村が恋しくなるものでした。

そのような中、帰省した際に友人と遊び、ご飯を食べたことが非常に印象に残っています。幼少期のころからの長い付き合いだからこそ、お互いを知り、腹を割って話することができる。そんな友人がいるこのふるさとこそが自分の居場所なのだと感じることができました。

また、地元を離れたからこそ、この自然環境の良さに気付くことができました。村内には大切に育てられた新鮮な野菜や、自由にのびのびと遊ぶことができる公園、施設が多くあります。今年の3月にいちご狩りに行った際には、甘く、みずみずしい、夢中で食べたくなるようないちごをたくさん食べることができました。豊かな自然に恵まれているこの喬木村だからこそ成すことができる魅力だと強く感じました。

さて、今回この「自分がどのような大人になりたいのか」という意見発表の機会をいただき、改めて自分と向き合ってみました。私は現在、学生的身であり、来年からは電力会社で働くことが決まっています。電力会社を選んだのは生まれ育った中部地区の方々の生活を、電気を通して支えていきたいと考えたからです。

社会に目を向ければ、地球温暖化やウクライナ問題など、様々な課題を抱えております。このような課題を解決することが私にできるのであればそれは微々たるものであり、ほぼゼロに近いと思います。私自身にできることは小さなことかもしれませんが、その中でも自分が置かれた場所で精一杯努力し、真摯に目の前の課題に取り組んでいきたいと思っています。そして、明るく輝くことができる「一隅を照らす」存在になりたいと思っています。最後になりますが、未熟だった私たちがここまで大きく育ったこと、これまでお世話になった多くの方々に感謝を申し上げ、代表の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

武田信玄狼煙上げと (社会教育委員会・学遊館広場 共催)

地域探検ツアーへ行こう！

喬木村の地域をより深く知ってもらう企画「地域探検ツアー」が昨年に続き開催されました！今年は狼煙上げに合わせて加々須地区の探検へ出発！



★ミッション1★

狼煙上げに参加している人にお話を聞いてみよう！
参加者の皆さんには公民館報記者として、狼煙上げの秘密について取材をしてもらいました！

- 狼煙上げに行きたいと思ったら参加できますか？
→さんかできる (まさよし)
- 狼煙上げは楽しいですか？
→どんどん上がって楽しい (きよな)
- 狼煙はどうやってつくるんですか？
→木とわらとたけ (しゅう)
- なんでこの場所でやるんですか？
→はじめに行われた場所だから (いおな)
- どんな時に狼煙を上げたんですか？
→てきがせめてきたとき (ゆうた)
- 狼煙にはどんな材料を使っているんですか？
→わらとあおいひのきのはっぱ (そうた)
- この場所から見える一番遠い狼煙はどこですか？
→じゃとうげ (ゆずき)
- どこで一番最初に狼煙を上げ始めたんですか？
→加々須と富田 (じゅんこ)
- なんで「狼煙」とは「おおかみ」「けむり」と書くんですか？
→おおかみのふんをむすとあぶらがでてきて、そのあぶらをつかうとぴーんとけむりがたつから。
(こうたろう)



- 狼煙上げにどんな魅力を感じますか？
→かしこいと思う。(ゆな)
- いつから狼煙上げをやっているんですか？
→500ねんまえから(とうま)
- たいへんなことはありますか？
→えだをとること(こうせい)
- 何人で準備しているんですか？
→20にん(だいき)
- なんでこの時期にやるんですか？
→のうぎょうがひとだんらくついたじきだから(わかな)
- どうして狼煙上げをはじめたんですか？
→今のケータイでんわのかわり(とあ)
- これまでやってきて、変わってきたことはありますか？
→かわったことはない(ななほ)
- どういう人たちが集まっているんですか？
→じっこういいんかいとかかすのひと(まあや)



★ミッション2★

瀬戸の滝で、体を動かしてあそぼう！



みんな大好き川遊び！生き物を探したり、シャボン玉を飛ばしたり…夢中で遊んでいました！遊ぶ時間が全然足りない！(笑)

★ミッション3★

牛のひみつをさがそう！



小山清志さんのお宅で牛を見学させていただきました。大きな牛にびくびくしつつも、頭をなでたりと楽しい時間を過ごしました。

★ミッション4★

お話を聞いて、加々須を知ろう！



河合区長さんと宮下さんに、加々須についてお話をお聞きました。加々須ってどんなところ？加々須の獅子舞って？加々須の知らないことがいっぱいわかりました。

最後は、加々須探検で見つけた加々須のお宝を模造紙に貼ってもらいました！「狼煙の場所から見た景色」や「瀬戸の滝」、「地域の人の絆」などたくさんの「宝物」が見つかりました！

狼煙上げの皆さん、
加々須の皆さん、

**ありがとう
ございました！**



突撃！となりの たかぎの子 【折込版】

公民館教養部 楽遊塾

川遊び体験 in 氏乗

7/29開催



つかまえたよ～！



「子どもたちに川で魚の掴み取りをさせてあげたい！」「自然の中での遊びを体験させてあげたい！」という教養部の皆さんの想いから生まれたこの企画。八組のご家族の皆さんにご参加いただき、魚を掴んで、さばいて、食べて、みんなで楽しい時間を過ごすことができました！

魚の掴み取りもはらわたをさばくのも初めての子どもたちは、最初は恐る恐るでしたが、最初の姿が嘘のように最後は生き生きと活動していました。

習い事など何かと忙しい子どもたちですが、こうした企画を通して、少しでも「自然の中で遊んだ楽しい思い出」が残ってくれたら嬉しいと感じました。

企画いただいた教養部の皆さん、ご協力いただいた氏乗地区の皆さん、ありがとうございました。



初めての体験がたくさんできたね。



美し御喬木まつりをしっかりサポート★

中学生ボランティアスタッフ！

8月15日に行われた喬木まつりに、ボランティアスタッフとして喬木中学校3年生 11名の皆さんが、参加してくれました！

当日はステージの司会・進行、ステージ出演者の楽器運搬、受付の3つの業務を担っていただき、喬木まつりをしっかりサポートしていただきました。

ステージ 司会・進行

素敵な浴衣姿と、初めてとは思えないほど上手なトークでステージを盛り上げてくれました！途中で帰ってしまったのが惜しかったです！



司会・進行のお仕事は大変なのだなと実感しました。久しぶりの村のお祭りにこのような形で参加させていただき、充実したとても楽しい1日でした。

貴重な体験をさせていただきありがとうございました！

小池 結愛

ステージ裏 楽器運搬



出演準備から、会場の設営、餅投げの準備まで幅広く動いてくれました。自ら気づいてどんどん動いてくれ、スムーズな催事運営ができました！

受付案内

うちの配布やアイスの引き渡しなど、来場される皆さんに気もちの良い対応をしてくれました！

イベント盛りだくさんの夏。

「突撃！となりのたかぎの子」も特大版でお届けしました！これからも、喬木の子どもの活動をどんどん発信して行きます！

『分館の「わ」』は次回掲載予定です！



3組代表あいさつ 関口 涼介さん

本日は、私たちのためにこのような会を開催していただき、誠にありがとうございます。「二十歳のつどい」に関わっていただいているすべての人に感謝したいと思います。私は、高校卒業後、関東の大学に進学し、初めて地元から遠く離れた場所で一人暮らしをすることになりました。関東はなんとといっても山がほとんどなく真っ平らです。だからなんだという話ですが、景色が一気に変わるとなかなかどうして気分は落ち着かないものです。さらに、1年目はほぼすべての授業がオンラインで、リアルで同じ学科の人と会うことが少なかったです。そんなやや寂しい1年目でしたが、3年目となった今では大学生活もだいぶ慣れてきて、多くのすばらしい人と関わることができ、とても楽しく充実した日々を過ごしています。最近、車を運転しながらアメダスを巡っていますが、おそらくほとんどの人がぼ

かんとしてしまうと思うので、ここで長々と話すのはやめておきます…。さて、地元を離れてからも、年に2、3回ほど喬木村に帰省していますが、毎回なにかしら景色が変わっているということに驚かされます。阿島橋から見えるなぞの柱は、以前はありませんでしたし、運動公園の近くにはいつのまにか新しく保育園ができていました。そういった変化を毎回楽しみにしていますが、同時に、今の私は喬木村を外から眺めることしかできないのだなあとという現実もつきつけられるような気分になります。しかし、それは別に悪いことではなくまた寂しいことでもなく、客観的に喬木村をみることでいいのではないかと私は考えます。これは、一度飯田下伊那を出た人間だからこその視点だと捉え、私はこの眼鏡を大切にしたいと思っています。私たちは、無事「二十歳」という節目を迎えることができたわけですが、数字の部分だけ20なだけで、立派な大人になったとはとても言えません。多くの経験をかさね、周りの人に成長を感じてもらうことが叶ったら、そのときに立派な大人の仲間入りができるのかなと思います。特に私は学生であり、今は将来に向けて勉学に励んでいるところです。そして、体力のある若いうちに経験値を稼ぎたいと思うばかりです。成人の抱負として、年齢で判断するのではなく、その人の頑張りや成果を客観的に認め評価できる人間でありたいです。簡単ではありますが、以上で私の意見発表を終わりにします。ご清聴ありがとうございました。

公民館社会部・教養部 主催

美し郷喬木まつり



BON! 盆踊り DANCE

今年には荻野目洋子さんの「ダンシング・ヒーロー」を加え、子どもから大人まで笑顔で声を出して踊りました！初めての試みではありましたが、子どもたちが大きな声で掛け声をかけてくれ、盛り上がりも最高潮に！今までになく盆踊りとなりました。

今回のこの「BON! DANCE」は、公民館社会部・教養部の皆さんがみんなで楽しめる盆踊りを！と企画してくれたものです。忙しい合間を縫って、踊りの練習や準備をしてくださいました！

盆踊りの円の中心には、キラキラ光る「軽トラ櫓」を設置。装飾の一部は子どもたちに楽しんでもらえるよう、光ブレスレットやペンライトを使用し、参加してくれた子どもたちに配布しました。

公民館の部員の皆さんの想いが届き、雨も無し！大成功のBON! DANCE!となりました。

来年も喬木まつりのBON! DANCE!をお楽しみ！

ちよちよんが ちよん



ちよちよんが ちよん

1, 2, 3



HEY!

令和5年度 第一回平和学習会

『沖繩の今』を考える

8/19 開催

昨年末、タモリさんが「新しい戦前が始まるんじゃないか」と発言し注目されました。穏やかそうに見える日々、そんな危機が迫っている現状を知りたいと、実行委員会では、沖繩の今を知り平和を考える学習会を開催し、五十余名の方が参加されました。

講演前に『沖繩、再び戦場へ（仮）』スピンオフ作品を視聴。沖繩の実相に迫る映画を作り続ける三上智恵監督が、最新取材過程で一刻も早く沖繩の現状を知りたいと製作し、全国で上映中の作品です。急速に軍事基地化が進む沖繩の現状を目の当たりにして無力感に苛まれます。それは今の日本の縮図と言えるでしょう。しかし、沖繩では諦めず抗い続ける人々がいるのです。

講演テーマは、「沖繩戦体験の継承を考える〜体験者とともに生きた世代として〜」。講師の吉川由紀さんは飯田市出身、二十五年前に沖繩に移り住み、沖繩戦の調査研究を続け、沖繩戦若手研究者共同代表として活動されています。四年前に続き再びお願いし、改めて沖繩戦を学び、私たちに何ができるのか考えました。

終戦間際、本土決戦に備えて「捨て石」とされ、二十数万もの命が失われた沖繩戦。英米連合軍による太平洋戦争最大規模の上陸戦でした。さらに日本軍

による持久戦や住民虐殺、集団自決（強制集団死）という理不尽な死が強いられました。この「僕は人生十六年」「生まれなかったかと思っただらいい」と語った当時の沖繩の児童生徒の言葉が胸に刺さります。

戦後七十八年、戦争体験者がわずかとなった今、体験者とともに生きた私たちは、その声を繰り返し聞き自らの血肉とし戦争の実相を知る。それが再び戦争をさせない力になっていくのだと、改めて「戦わない覚悟」を心に刻みました。



第26回 椋文学夏期講座

講師

池上幸治先生

8/20 開催



本年度は、椋文学研究家である池上幸治先生をお招きし、「椋作品を子どもたちと読む」と題したご講演をいただきました。

「読解」から「読書」「表現」につなげる学習

椋十さんは、喬木村出身の有名な児童文学者です。しかし、子どもたちは、そのことを知りません。そこで、教科書の「大造じいさんとガン」を学習した後で、複数の椋作品を読む時間を設け、「椋十作品 私のナンバーワン」、「一番心に残った椋十作品を紹介しよう」をテーマに学習に取り組みました。

椋十記念図書館と連携した学習を考えてみては？

喬木村は椋十さんのふるさとです。椋十記念図書館と連携した学習ができませんか。総合と国語科の学習時間に、椋十さんの本の帯をつくる、作品のポスターをつくって張り出す、子どもたちが椋十記念図書館でガイドをする。「椋さんてこういう人です」「この作品はこういうところが面白いのです」などと紹介する学習をすれば、やりがいがあって、面白いと思います。

複数作品を読み、感動し、本を読むようになった子ども

複数の椋作品を読んでいくうちに、子どもたちは自然と作品に共通して流れているものを読み取っていき、椋さんの人柄まで感じ始めました。「読書なんてめんどくさいと思っていたが、「デデッポ」という山バトの話を読んでとても感動した。だから、前より本を読みたい気がする」子どもたちが変わって来たことを感じました。

○椋十さんの作品に多くの子どもたちが出会える努力を

生きることの喜び、大切さ、生命の尊厳といえ、椋十さんが子どもたちのために書いたすべての作品の底に流れているものではないかと思えます。動物たちの、あるいは動物と人間のたくましく、精一杯生きている姿から子どもたちが学び取るものは大きいと思えます。私たちは、これからも椋さんが残してくれた作品を大切に、椋さんの作品に多くの子どもたちが出会えるように努力をしていかなければならないと思えます。

今回は、学校での実践についてお話をいただきましたが、多くの椋作品に触れ、子どもたちの感動や読書への興味・関心を育てることは家庭でも取り組めることだと感じました。

子どもだけでなく、是非親子で、家族で一緒に椋作品を読んでみませんか？

たかぎ短歌会 葉月歌会 詠草

元氣そう以前のままで嬉しいと友は手を取る朝のスーパー

田中 妙子

常日頃椅子と机の生活にて宿屋の畳足に馴染めず

塩澤 静男

すず虫の今年も羽化し成長し頒つ友らは巣作りて待つ

木下 寿子

ねじり花今年も咲いて濃きピンクねじねじれ天に向かいぬ

和田 京子

飼主は畑仕事にて汗だくで家に帰れば猫たち昼寝内山 貴子

「元氣だか ご飯食べたか」と案ずれど男孫は至って浣刺とした声

小椋 りよ

手作りのベッド設え骨折の我の退院待ち居る夫は

知久 美子

施設より一夜帰宅の夫の声確かなる応答安堵する宵

木林 睦枝

ジイさんは腰を痛めてバアさんは足をひねりて老々介護

市瀬 准子

猛暑日に車窓より見ゆ岩肌のヤマユリの白涼しさを呼ぶ

内山 和子

隣組の若者それぞれ親に似てやがて跡継ぎ頼もしき貌

元島 康子

陽炎の揺らめく先の青い空ぐぐつと背伸びし雲が湧き立つ

塩澤真由美

若き日に熱唱せしも今何処「三度許すまじ原爆」の唱

福澤 亀人

喬木村俳句会 葉月句会 詠草

葉に乗りて薄みどりなる子蟻螂

木下 瑞恵

十五分座布団折りて昼寝かな

戦場へ夢ある命花梯梧

矢澤 恵美子

父子して紐渡し合ふ盆の莫塵

白球を追ひかけ子等の夏果つる

松島 みのり

役終へて老犬逝くや夏の夕

ベランダに何語らずも夏の夜

宮島 高枝

清流に子等の歓声夏休み

猫背となり吾も加はる盆踊

村山 たか子

すぐ消えてなほ有るごとし二重虹

病める身を癒しくれるし石榴の実

原 美恵子

夕虹や空染めわたる夢の橋

明智紋ゆめまぼろしの桔梗かな

西元 くにこ

白壁に揺るる凌霄花鄙の道

助手席の嫁は饒舌秋暑し

市橋 ヨリ

天龍川の昼夜を舍かず初秋なり

小さき星零れてゐたり女郎花

松葉 孝子

新涼や木立の中の珈琲屋

気短な父に急かされ門火焚く

吉川 てる子

林いろはさん 全国高校総合文化祭写真部門展

喬木村帰牛原在住の林いろはさんが、昨年度開催された第29回長野県高等学校写真展で最優秀賞を受賞され、7月末より鹿児島県で開催された全国高校総合文化祭 写真部門に出展しました。

今回出展された作品「怪人」は、目力のあるお母様をモデルにした一枚。「インパクト」を第一印象に取り組んだというお話のとおり、写真もネーミングもとてもインパクトがある作品となっています。

今後の活躍を楽しみにしています。(来年1月号には表紙で登場予定です！)



お知らせ

秋のスポーツ交流会

日時：令和5年10月15日(日)
8:00～12:00
場所：中央社会体育館・芝グラウンド
内容：ワンバウンドふらばーるバレー、囲碁
ボール、卓球、ペタンク、モルック
申込：10月6日(金)までに
右記のQRコードから
お申込みください。



第2回平和学習会

「飯田市平和祈念館見学」

日時：令和5年10月21日(土) 10:00～
集合：9時20分に役場前駐車場にお越しください。
内容：飯田市平和祈念館でガイドの方に展示内容を説明していただき見学します。
申込：10月5日(木)までに
右記のQRコードから
お申込みください。



定員：15名まで

<11月以降のイベント>

- 11月7日～12日
文化展示ウィーク(仮称)
場所：福祉センター他

お問合せ 喬木村公民館 0265-33-2002

あのとき

このとき

公民館長



八月二十九日、新型コロナウイルス療養警報が発出された。その時期に私もコロナに感染してしまっ

た。二十八日の月曜日の朝、喉が少し痛く、微熱があった。職場に欠席連絡を入れるとコロナ感染者が出ているという。感染の検査をお願いしたいと総合病院に電話するも、「ただいま混み合っておりまして、後程おかけ直しく

や」と繋がったが、翌朝来てください、とあっさり言われた。近くの医院に電話すると、すぐ対応してくれ、発症から一日過ぎた明日の方が検査結果が出やすいですよ、と説明して下さった。翌朝とはそ

う事だったのか。翌朝、運転席で看護師さんから検査を受け、「きれいに二本線出てますよ」と褒められたような変な気分

に問診を下さいました。その夜、39度まで熱が上がリフラフラしたが、処方された薬で治まった。自粛期間の会議・イベント等の欠席連絡をしたが申し訳なかった。かの沈没船の映画俳優に似た名前のウイルス対応薬「ラゲブリオ」を二日二回、4カプセルずつ飲んだせいか三十一日からは通常の生活ができた。この薬、国の補助で九月までは無料。ありがたい。ちなみに、診察検査料は3640円、薬代は1040円だった。

九月二日の朝刊に「コロナ医療支援来春廃止検討」とあった。家族がまだ健康であることが何よりであるが、支援は続けていただきたい。

今回の表紙

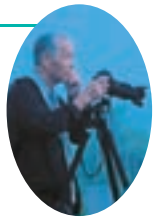
題字

真浄寺書道会 松島杏佳さん
(喬木第一小学校 6年)
真浄寺書道教室で1年生から習字を習っています。先生のお手本を見ながら、自分の思うバランスで書けるまで、頑張



写真

喬木カメラクラブ 湯澤昭夫さん
夕焼けがとてもきれいな日に、南部防災センターまで急いで行って撮った一枚。夕焼け・朝焼けを前から取りたいと思っており、何度も南部防災センターに撮影に行っていました。日によって景色が変わる夕焼けの中で、一番気に入っている一枚です。



ご意見・ご感想 お待ちしております

館報を読んで思ったこと、感想をお寄せください。寄稿も大歓迎です！
喬木村の公民館報をみんなで作っていきましょう！

☎ 0265-33-2002

mail : syakai@vill.takagi.nagano.jp

編集後記

夏の終わりは決まって喪失感に苛まれる。夏が最も好きな季節だからか、夢のような夏休みが終わ

り、長い長い二学期が始まるあの頃の憂鬱をいまだに思い出すせい

か。

私の中で晩夏という季節が持つ意味合いは、早春や晩秋のそれと比べて一際強く、春夏秋冬に第五の勢力として匹敵するほどだ。

何事も始まりがあれば終わりがあるが、一方で終わりがあれば始まりもある。季節は移り変わり、もう九月。厳しい残暑が続いているが、黄金色の稲穂をなびかせる風からは秋の匂いがする。

紅葉に、十五夜に、秋の味覚。晩秋に名残惜しさを感じるくらいに秋を満喫したい。